

読書のすゝめ

その2

H 29

4 / 11

新任の先生紹介①

新任の先生方の思い出の本・おすすめの本を紹介いたします。

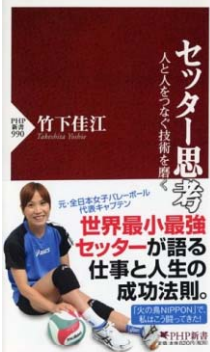
泉 禎人先生（3年1組 副担任・理科）

『ルドルフとイッパイアッテナ』

昨年映画化された児童文学作品ですが、小学生の頃何度も読み返すほど面白かったことを覚えています。子ども向けの本ですが心温まる物語です。一度読んでみてはいかがでしょうか。

『セッター思考』竹下佳江（PHP研究所）

元全日本女子バレーボール代表主将の竹下佳江さんの著書です。私が最もあこがれた選手であり、その考え方や生き方は様々な面で参考になると思います。ぜひ読んでみて下さい。そして、バレー部に入部して下さい。



柴 美奈子先生（3年3組 副担任・国語）

『人を助ける仕事』江川紹子 小学館文庫

これから社会に出て仕事をする皆さんは、いろいろな意味で、長く続けられる仕事を考えた方がよいと思います。特に女子生徒には、自身が自立できるように真剣になって考えてほしいです。

さて、そのような仕事とは何か。一つには、この本にあるように、人を助ける仕事、人との関わりの中でスキルを磨き、なくてはならない存在になれる仕事があります。私自身が従事している教員の仕事もその一つだと思っているので、この仕事も、皆さんにお薦めしたいです。まずは、この本で紹介されている、様々な現場で働く人たちの声を聞いてみてください。



『バラカ』桐野夏生 集英社

震災のため原発4基がすべて爆発し、放射能警戒区域で発見された一人の少女「バラカ」が、過酷な現実を生き抜いていくという物語です。6年前の「3・11東日本大震災」の時には、皆さんはまだ小学生だったので、そのときの社会の動きまではよくわからなかったと思いますが、この小説を読むと、自分では見聞きできない事故後の様々な状況がリアルに想像できます。その上で、原発事故のもたらすむごさとはどういうことなのか、立ち止まって考えてみるとよいと思います。



関 大夢先生（2年3組 副担任・地歴公民）

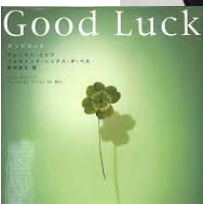
『Good Luck』アレックス・ロブラ、フェルナンド・トリアス・デ・ベス

訳：田内志文

五十四年ぶりに運命の再会をはたした幼なじみのジムとマックスは、お互いの近況について語り合った。そこで仕事も、財産も、すべてを失い変わり果てた友人に、祖父から聞かされた「魅惑の森」の物語を語り始める。奇蹟のラストへ、七日間の旅が始まる。

みなさんには部活、勉強、友人関係において『がんばる』ことや『努力』しなければならぬ場面がたくさんあると思います。しかし『がんばる』ことや『努力』にはゴールがありません。ゴールが見えないから

「こその不安や焦りは相当なものです。どうがんばっていいのか、どこまで努力すればいいのか悩んでいるそんなときに、この本をおすすめします。」



最後に残ったのは、ふたり…。
目指す夢、届かない夢、届いた夢の思い出は、
幸せを手にする7日間の物語